

飛躍

HIYAKU

第347号

東海大学付属高輪台高等学校・中等部 学校報

●発行日/2015年10月1日
●発行者/東海大学付属高輪台高等学校・中等部 校長・片桐知己治

「知性と品性、そして感性を」

若き日に汝の思想を培え Cultivate your thoughts in your early days
若き日に汝の体躯を養え Nurture your body in your early days
若き日に汝の智能を磨け Develop your intellect in your early days
若き日に汝の希望を星につなげ Aim your hopes towards the stars in your early days

お知らせ

後援会『けやき屋食堂・バザー』

ご来場をお待ちしております!!

後援会会長 渡邊 一史 学年部部长 木島 恵

10月10日(土)、11日(日)両日に開催されます第51回建学祭において、本年も後援会として、けやき屋食堂とバザーの参加を予定しております。

場所 ●けやき屋食堂/B2F 食堂 10:00~
●バザー/B2F 物理実験室 10:00~(両日とも)

行事予定

October 10月

November 11月

- 1日(木) 後期始業式[冬期正制服着用] 45分短縮授業
- 2日(金) 中学校教員説明会(16:00~)
- 3日(土) 短縮授業 保護者会②(家庭通知表配布14:30~16:30) 保護者による学校評価アンケート①
- 5日(月) 塾教員説明会(10:00~)
- 7日(水) 建学祭開祭式(7時限)
- 8日(木)・9日(金) 建学祭準備日
- 10日(土)・11日(日) 第51回建学祭
- 12日(月) 体育の日
- 13日(火) 建学祭閉祭式 45分短縮授業 校医相談日⑥ 学校保健委員会② 安全衛生委員会②
- 14日(水) 振替休日(10/11分)
- 15日(木) 学年集会(中1、高1)
- 16日(金) 第14回高校体育祭予備日(9/30体育祭実施の場合は授業日)
- 17日(土) 教育実習(~11/7)
- 18日(日) 池袋進学相談会(サンシャインシティ)
- 21日(水) 高3スポーツ大会[さいたま総合グラウンド](体育移動授業)
- 24日(土) SSH成果報告会 特別時程
- 25日(日) 高校受験生・保護者学校説明見学会(3回目)
- 28日(水) 高3スポーツ大会(予備日)
- 29日(木) 学年集会(中3、高3)

- 1日(日) 東海大学建学73周年記念日 休業日
- 2日(月) 創立71周年記念式典[正制服]朝礼 1時限目カット 短縮授業
- 3日(火) 文化の日
- 4日(水) 高3スポーツ大会(予備日)
- 5日(木) 生徒会立会演説会(1時限 中等部:アリーナ 高校:放送) 特別音楽鑑賞会(5・6時限 中等部:アリーナ) 高校受験生・保護者学校説明見学会(4回目)
- 8日(日) 校医相談日⑦
- 10日(火) 学園高大連携総合試験(高3) 基礎力判定テスト(高1、高2)1回目 外部実力試験(中等部)
- 12日(木) 中等部受験生・保護者学校説明見学会(4回目)
- 15日(日) 一斉公開授業(2回目) 専門医によるカウンセリング④
- 18日(水) 一斉公開授業(2回目) 中等部合唱祭(1・2限)
- 19日(木) 中等部水泳実習
- 21日(土) 勤労感謝の日
- 23日(月) 生徒による授業評価アンケート(3回目)
- 26日(木) 後援会委員総会
- 28日(土)

東海大学適性審査による合格者29名

学園オリンピック

【文化部門】優秀賞3名
【スポーツ部門】卓球男子団体・個人優勝
軽音楽部全国大会出場

TOP*NEWS



適性審査・学園オリンピックによる特別奨励推薦候補者の皆さん



学園オリンピック夏季セミナー入賞者
後列左から浅倉さん、村山君、鈴木さん、藤井君
前列左から尾上さん、鮫島君、尾前君



避難訓練
今年の夏は全国的に記録的な猛暑となり、東京でも、8日間連続猛暑日の記録を更新した。また、今年で100年を迎えた全国高等学校野球選手権では系列の付属相模高等学校が45年ぶり2度目の全国優勝を果たした。何かとあつい夏であった。「暑さ寒さも彼岸まで」とはよく言ったもので、季節は刻々と移り変わり夏もようやく終息を迎え、秋の気配を感じる今日この頃である。秋の気候は何をやるにしても適している。「スポーツの秋」、「食欲の秋」、「読書の秋」、さて、皆さんはどんな秋を過ごすのでしょうか。(ほ)

編集後記



学園オリンピック 卓球部 男子団体・個人優勝!



全国大会で自分たちの音を届けました♪(軽音楽部)

東海大学付属高輪台高等学校・中等部
TEL.03(3448)4011 FAX.03(3448)4020 ホームページ:http://www.takanawadai.tokai.ed.jp/

希望を星につなげ!

2015年度 東海大学学園オリンピック 文化部門

日時：7月31日(金)～8月5日(水) 場所：東海大学孺恋高原研修センター

※芸術【音楽】部門 日時：5月8日(金)～5月10日(日) 場所：湘南キャンパス 松前記念館

部門別 受賞者

数学部門 (第25回)	奨励賞	鈴木 美咲	3年 8組	芸術【造形】部門 (第24回)	奨励賞	村山 正	3年 8組
理科部門 (第22回)	優秀賞	尾上 愛	1年10組	芸術【音楽】部門 (第24回)	銀賞	野田 修平	3年 8組
英語部門 (第24回)	優秀賞	鮫島 正平	3年 3組		銅賞	松岡 瑛紀	3年 2組
	奨励賞	浅倉 彩夏	2年 3組	ディベート部門 (第10回)	優秀賞	尾前 隼士	3年 5組
					奨励賞	藤井 崇史	3年 9組

☆優秀賞☆を受賞した皆さんの喜びの声を紹介します

うれしい! 楽しい! 理科大好き!

理科部門
1年10組 尾上 愛

ハナスベリヒユという植物の組織培養の実験をまとめたレポートで一次審査を突破し、私は今回で3回目の学園オリンピック出場を果たすことができました。孺恋では化学、地学、生物、物理の4分野でそれぞれ実習を行いました。その中でも特に個体推定法を用いたアキアカネの個体数調査がとても面白く、他の付属生と一緒に考察して多くを学ぶことができました。来年もまた孺恋で他の付属生や新しい理科の知識や経験と出会えるのを楽しみに、今から来年度の審査に向けて準備を進めたいと考えています。

異文化コミュニケーションで文化の衝突に感動

英語部門
3年3組 鮫島 正平

2015年度学園オリンピック英語部門では、欧米と日本との異文化コミュニケーションを多くの先生方にご指導いただきながら、講義やグループワークを通じて、実際に日本と欧米の表現の違い等を学びました。「欧米人のジョークやユーモアの考え方、使い方」に改めて感動し、異文化間の「文化の衝突」を体感し、多くの違いを知ることができました。今回の学園オリンピックでは双方、互いの違いを認め尊重し合うこと、積極的に理解し合う姿勢と態度が重要だと思いました。そして、私の学園生活の集大成とも感じました。ご指導いただいた先生方や、共に学んだ仲間により感謝しています。

支えられて

ディベート部門
3年5組 尾前 隼士

私は今回初めて学園オリンピックのディベート部門に参加しました。初めは「自分なんかはしっかりと参加できるのか」と不安でいっぱいでした。しかし親身になって指導して下さる先生方や、優しい他の付属校生などのお陰で楽しく充実した生活を送ることができました。今回私が優秀賞に選ばれたのは、指導して下さった先生方や付属校生の方たちのお陰です。残りの高校生活を、今回の経験を生かし送っていきたいと思います。

2015年度 東海大学学園オリンピック スポーツ部門

種目	順位	氏名	種目	順位	氏名
卓球	優勝	男子団体	陸上競技	2位	3年 西城 陸
	優勝	3年 針ヶ谷 知哉	バドミントン	3位	男子団体
	2位	女子団体			

感謝

卓球部 3年8組 針ヶ谷 知哉

学園オリンピックの優勝は、私にとって大きな目標の一つでした。今まで苦しい時もつらい時も、頑張ってきた分、優勝を決めた瞬間に感じた喜びはとても大きなものでした。しかし、その喜びは決して自分一人では勝ち取れるものではありませんでした。さまざまなことを教えてくださった先生方、苦楽を共にした仲間、陰から支えてくれた両親など、多くの方々のお陰であり、とても感謝しています。この経験をずっと大切にしていきたいと思っています。



「東海大学適性審査」の結果、29名が新たに推薦候補者と決定。おめでとう!

東海大学の付属推薦入試について、6月20日(土)に芸術系の学科、6月27日(土)に医学部・看護系の学科、さらに7月26日(日)と8月22日(土)に工学部航空宇宙学科航空操縦学専攻の適性審査がそれぞれ実施され、29名の生徒が合格、推薦候補者と決定しました。それぞれの生徒は、1、2年生のうちからしっかりと適性審査に向けて準備をして、厳しい実技試験・面接試験を突破して合格を勝ち取りました。特に、今年度は新川琴乃さんが高輪台高校の女子生徒で初めて航空操縦学専攻の候補者に決定しました。おめでとうございます。

現在、高校1、2年生で適性審査のある学部・学科を希望する皆さんは、早期からの準備を心掛けてください。

東海大学適性審査合格者

進学予定先	学科別人数(名)	進学予定先	学科別人数(名)
工学部航空宇宙学科航空操縦学専攻	2	教養学部 芸術学科 音楽学課程	4
医学部医学科	6	教養学部 芸術学科 美術学課程	1
健康科学部看護学科	7	教養学部 芸術学科 デザイン学課程	3
		医療技術短期大学 看護学科	6

東海大学適性審査による合格者氏名(五十音順) *の付いた生徒は特別奨励候補者

青木彩也香	飯島 麻理	磯野 駆*	伊藤 瑚子*	笈川 智尋*	大島 佑	大谷 洸貴*	大橋 拓海
黄 星嘉*	菊池 航平	小松 知広	新川 琴乃*	菅原 綾乃	曾根なつみ	高城 絢香	谷川 諒*
津山 紘慶*	出村 知季	新谷 千春	野田 修平	野津美梨加	濱田 翔太	針ヶ谷知哉*	平本 彩乃
布施 拓己	松岡 瑛紀	望月 ルカ*	森田 里奈	安本 夏美			

2015年度 夏休み部・同好会結果

卓球部	陸上競技部	アーチェリー部	軽音楽部	吹奏楽部	陸上競技部(中等部)	吹奏楽部(中等部)
城南地区大会 男子団体 準優勝 港区新人大会 一般男子 準優勝 一般女子 優勝 男子Jr 優勝	東京都私学大会 男子三段跳び 第8位 3000m障害 第4位 5000m 第5位	関東選抜大会選考会 70mR 第7位	高校生ライブ2015 優秀賞 Heaven's Crow 全国軽音コンテスト 優秀賞 Heaven's Crow	東京都高等学校吹奏楽コンクール 金賞 東京都マーチングコンテスト 金賞	東京都私学大会 男子110mH 第6位 男子砲丸投げ 第7位	東京都中学校吹奏楽コンクール 金賞
針ヶ谷 知哉 中村 美優 松本 峻 関 駿平 飯野 慶人 藤田 仁		山下 大輔			加藤 真裕 東郷 優倫	
東京夏季オープン大会 男子シングルス1部 第3位 男子ダブルス1部 第3位 男子ダブルス2部 準優勝						
大田区オープン大会 男子ダブルス 優勝						
藤本 楓太 篠田・藤本ベア 秋場・小池ベア 篠田・藤本ベア 猪俣・岡田ベア						
School&College Competition 2015 高校編成Hip Hop部門 第2位						
東京都秋季剣道大会 女子2部団体 優勝						

全国高等学校軽音楽コンテスト出場《軽音楽部》

ステージに懸けた夏

軽音楽部 部長 3年6組 木村 日菜子

高校2年生の夏、私たちは夏の大会への出場バンドを決める校内のオーディションで落ちました。出場する権利さえ逃した自分の無力さに、どうしようもなく心を痛めたことを覚えています。それから高校3年生の夏までの間、日々の練習や他校との合同ライブ、校内でのライブを経て、「魅せる」ということを学び続けました。そして今年は大大会出場を決めることができ、予選、準決勝、と駒を進めることができました。東京都決勝大会では準グランプリをいただき、夢の全国大会へも出場することができました。全国大会で結果を形として残すことはできませんでした。しかし、あのステージで体験した、感情の爆発のようなものは素晴らしい経験でした。今、夏休みのどんな時を思い返しても、その全てに応援や協力して下さった方々の姿があります。部員、保護者の方々、顧問の先生、日頃指導して下さる先生方、本当にありがとうございました。これからも音楽を待っていてくださる全ての方々のために、軽音楽部は熱い音を探し続けます。



東京都大会準グランプリを受賞し、全国出場を決めた時の様子!

2015年度学校運営方針

先月号まで、3回にわたって2015年度の学校運営方針重点目標について紹介してまいりました。今月からは、目標達成に向けての本校の取り組みを紹介していきます。

本校の取り組み PART.1

基本的な生活習慣を身につけさせる

集会時の歌唱指導、話を聞く姿勢を徹底させる

道徳教育を推進する

学業不振生徒への学習支援ならびに生活習慣の改善と意欲・体力の向上をはかる

本校の重点目標の一つに「学習と部活動の両立」があります。教科の学習や部活動をはじめとする教科外の活動を実りあるものにするには、まず人として基本的なことをきちんと身につけることが大切です。ここにあげたのは、どれもそのための取り組みです。

授業に集中したり、部活動の練習に打ち込んだりするには、規則正しい生活を送り、心身を常に健康に保てる人にならなければなりません。生活習慣の乱れは、学業不振や学校生活不適應の引き金にもなります。学業不振生徒には学習面の支援だけでなく、生活全般にわたるサポートが必要だと考えています。

また、きちんとした集会を行うためには、集団の一人ひとりが自覚を持たなくてはなりません。道徳を外部から要求されるルールとしてしか受けとめられない人は、集団の中にまぎれたときに平気で規範を逸脱します。道徳を内面化し、自律的に行動できる人を育てるためにも、しっかりと集会での指導をしています。

タイ王国・プリンセス・チュラポーン・サイエンス・ハイスクール・トラン校訪問団が来校!

このたび、本校はタイにあるPrincess Chulabhorn Science High School TrangとMOU(覚書)を交わし、交流を始めることになりました。校名からもわかるようにトラン校は科学分野の教育に力を入れています。本校との交流においても、両校の生徒たちが自分の研究内容を発表し、共通のテーマを研究するなど互いに切磋琢磨し、高め合うことを目的としています。今回のトラン校からの訪問団は、生徒3名、教員2名、タイ教育省から1名の計6名からなり、両校の交流の記念すべき第一歩となりました。一行は9月1日からの3日間本校を訪れ、3年SSHクラスとの交流では数学Ⅲの授業を見学したり、課題研究の授業では各研究グループを回って、生徒たちと英語で意見交換をしたりしました。また英語の授業時間を使って、トラン校の生徒一人ひとりと3年SSHから1グループが、研究している科学分野について英語でプレゼンテーションを行いました。その他、茶道体験や武道(柔道・剣道)の授業への参加など、日本の伝統文化にも触れていただき、非常に感動されていました。

今年の12月には、本校生徒がトラン校へ訪問する予定です。今からしっかり準備をして、実り多き訪問にしたいと思っています。

両校の交流はまだ始まったばかりです。この交流が、両校の生徒たちの絆を強め、両校のさらなる発展につながるよう、互いに協力して良いものにしていきたいと思っています。



覚書の交換



本校SSHクラスの生徒と交流

東海カルチャーセミナー

東海カルチャーセミナーに参加して

後援会学年部部長 木島 恵

9月5日に開催されました東海カルチャーセミナーは、今年で10回目を迎えました。

第1部の本校吹奏楽部の皆さんの演奏は、自然と体がリズムをとり、手拍子をとりたいくなる曲目で、会場の私たちを存分に楽しませていただきました。3曲目の「宝島」は、会場いっぱい広がって踊りながらの演奏で、和やかな雰囲気を出してくれました。

続いての第2部では、東海大学海洋研究所・地震予知研究センター長で教授の長尾年恭先生を講師にお招きし「首都圏直下型地震、東海地震は必ずやってくる」というテーマでご講演いただきました。

地震予知研究は、私たちの想像よりもはるかに進んでいるそうです。ただ、せっかく地震を予知することはできても、その発生を防ぐことはできないので、正しい対策を取り、被害を最小限にとどめることが大切ということです。また、先生が東海大学で取り組んでいる最新の予知研究「地下天気図プロジェクト」についてもご紹介いただきました。

東日本大震災以降、防災に関する関心が高まっていることもあり、生徒、保護者、地域の方を含め400名を超える方々にご参加いただきましたことに感謝申し上げます。400名を超える生徒・保護者の方々と一緒に災害への備えについて拝聴することができ、たいへん意義深い講演会となりました。



講師の長尾年恭先生

中高生の理科体験授業開催

8月6日から2泊3日で「中高生の理科体験授業」が東海大学湘南校舎で行われました。学園の付属中高生を対象に行われ、本校から中等部2・3年、高校1年の5名が参加しました。大学の研究室で、大学の先生と実験を行い、理工系の楽しさに触れてきました。交流会では大学生や大学院生、他の付属の生徒と懇談し、楽しい時間を過ごすことができました。

最後の理科体験授業

1年10組 青山 知生

私にとって、今年の理科体験授業は最後でした。中等部2年から3年連続して参加しました。毎年内容が変わっているのに、退屈することが全くありませんでした。今回、私はゲームのプログラミングのことについて学びました。これは、ゲームの中で出てくるものに動きやあたり判定などをつけて、簡単なゲームを作るというものでした。また、プログラミングの仕方によっては、ゲームの難しさが大きく変わるということを体験して知ることができました。もともと私はゲームなどが好きでしたが、プログラミングを勉強すると、世に出ている「マリオブラザーズ」などのゲームを作るのがとても大変であることがわかりました。3回目の理科体験授業も楽しいものになりました。中等部生の皆さん、来年の夏に理科体験授業に行ってみてはどうでしょうか。



うちわでアンテナをつくり、TVを映しました



学生との交流



学んだことを発表

学年だより 中1

～剛健旅行～

夏休み前の7月10日(金)・11日(土)に中等部1年生にとっては初めてとなる剛健旅行が行われました。昨年度までのコースよりも少し距離が延び、道も険しいとのこと帰ってくるまではとても心配でしたが、参加した全員が(何人かは残念ながら時間オーバーで車で帰ってきましたが)疲れを感じさせないような元気な顔で戻ってきてくれました。来年はさらに大きな目標を持って頑張ってください。

みんなで歩いた剛健旅行

A組 清水 凜

「楽しみだね」スタート直前に友達と話していました。友達7人と走りました。嬬恋村はとてきれいで最初はみんなで楽しくおしゃべりしながら歩いていました。山道のようなところでは「ヤッホー」と叫んだり、キャベツ畑では写真を撮りました。しかし、自分たちでは結構歩いていると思っていても、途中で会う先生に聞くと、「まだまだゴールまでの道のりは長いぞ」と言われ、だんだんと疲れていきました。それでも友達と話して、疲れを忘れることができ、5時間14分という長い時間をかけてようやくゴールすることができました。終わった後の豚汁とおにぎりはとてもおいしかったです。この剛健旅行を終えて、友達との絆と協力することの大切さがわかり、そしてゴールすることの達成感を味わうことができました。

楽しかった剛健旅行

B組 番場 玲央奈

中1の初めての剛健旅行は中学生は全員19キロでとても疲れましたが、友達と一緒にいろいろなことを話しながら楽しく歩くことができました。はじめは、高校生も一緒に歩いていましたが、途中から中学生だけになって私たちのグループは6人で歩いていました。ずっと笑っていたりとても盛り上がりつつ歩いていくうちに友達が先に行ったりして、だんだんと人数が少なくなって結局2人だけになってしまいましたが、最後はいつの間にか合流した2人を加えて4人でゴールしたのでよかったです。ゴールしてからの豚汁とおにぎりはとてもおいしかったです。

そして山道はキツかった

A組 山口 裕也

もう、どのくらい歩いたのだろうか。すでに自分の足は限界が近づき、ノンストップで歩いているとこわれそうに痛い。しかも、この上り坂が終わったとしても、終わりの見えない山道がある。今まで山道なんてほとんど歩いたこともなく、上りが長い距離続き、それが終われば下り坂。平地なんて全くと言っていいほどない。かなり歩いた。道はガタガタ、カーブも多い。上りじゃないだけマシだろうが…。それから20分ほど過ぎ、ゴールの建物が見え、走り、ゴールした。かなり遅かったが、満足のいく旅行だった。過酷だったが、また行きたい。

初めての剛健旅行

B組 中村 隼

僕たち1年生にとって初めての剛健旅行でした。はじめはどのくらい歩くのかなあなどという不安を抱えて列に並んでいたのですが、歩いていたらそこまでつらくはなく、半分の地点まではペースを保っていけました。しかし、半分から先の先生に会うたびに「あと何キロですか」と質問していました。残り数キロを残してペースが落ちてしまいましたが、何とかゴールまで行けてとてもうれしかったし、達成感も感じることができました。しかし、到着する時間が予定よりもだいぶ遅れてしまい、慌ただしく風呂に入りました。楽しみだった豚汁はほとんど食べることができず、翌朝はとてもおなかがすいてしまいました。



頑張るぞ!



まだまだ余裕があります

～おめでとうございます～

4月に美術の授業で東京消防庁主催「はたらく消防の写生会」に参加しました。本校での受賞者を紹介します。

- ◆優秀賞(総監賞) A組 千葉俊君 B組 阿島里穂さん
- ◆入選(署長賞) A組 上之園優一君・小松原来未さん B組 金城丈君

なお、高輪消防署HPでも入賞作品を掲載中(9月時点)

学年だより 中2

English Summer Campを終えて

中等部2年生は、夏休み中の8月25日～27日の3日間、群馬県嬬恋村にある東海大学嬬恋研修センターで、English Summer Campに参加してきました。この行事は、アメリカから大学生20名がやってきて、5～6人の生徒たちのグループに最低1名の大学生がつき、3日間を英語だけ使って過ごすというものです。各グループでは、グループごとに発表する英語劇の構想を練って実演したり、ジェスチャーを交えた英語の自己紹介の練習をしたりと、英語を使った濃密な時間を過ごしていました。また、雨が降っていたために中止も検討されていたキャンプファイアーは、奇跡的に直前で雨がやみ、英語の歌を数多く歌いながら、マシュマロも焼いて楽しく実施することができました。

気持ちを伝えるために

A組 小澤 幸太

僕は、人前で話すことが苦手です。初めて会う人と話すことも緊張してあまり話せません。English Summer Campに参加する前は、大勢のネイティブと英会話で作業をすると思うと気が重たかったです。

会ってみると、ネイティブの大学生たちのテンションが高くてびっくりしました。だけれども一緒に過ごしているとだんだんと僕の気持ちも前向きになり、話をしたいという気持ちになりました。そしてネイティブと話をすることが楽しくなって、もっと話すために、知っている単語を使いながら気持ちを伝えました。

ネイティブも僕の言葉を一生懸命に聞いてくれました。

日本人同士でも外国人とでも、会話は伝えようとする気持ちが大切だとわかりました。3年生になると海外ホームステイがあります。自分の気持ちを伝えられるように、英会話の授業を楽しみながら頑張りたいです。

班員と共に

B組 三尾 心咲

English Summer Campへ行く前はアメリカの大学生たちと仲良くできるか心配でしたが、会ってみると英語が苦手な私にもわかるようにジェスチャーを使ったり、ゆっくり話したりしてくれたので話がわかり仲良くなりました。また、わからないときは班の友達同士で助け合うこともできたので絆が強まりました。

時にはみんなの意見や行動が合わないこともありましたが、話し合っ解決することができました。そして、いろいろな仕事も班長だけがするのではなく班員みんなで協力できたので、よかったです。

私は3日目の個人発表のときに、緊張してなかなかうまくできずにいました。すると友達が、「ガンバレ」と声をかけて励ましてくれたので頑張ることができました。

最後の班ごとの劇発表のときは、自分のセリフ以外にも覚えて助け合うことができました。

今後の学習への意気込みは、英会話をより理解できるように、身近な単語を一つでも多く覚えていくことです。



ネイティブと英語劇を実演



英語を聞き取ろうと真剣です

学年だより 中3

☆夏休みの思い出☆

3年生のみんなはどんな夏を過ごしたのでしょうか。これまで通り部活動に励んだ人、部活動を引退した人、高校の部活動に参加した人、家族との旅行や友達と楽しい時間を過ごした人など、中等部最後の夏休みを満喫できた人が多かったようです。今回は高校の剣道部、柔道部の遠征に参加した2人の思い出を紹介します。

遠征を終えて

A組 齊藤 和希

僕は今年の夏休み、高校の剣道部の先輩と千葉県館山市に遠征に行きました。

初日は、お昼頃東京駅に集合しました。そこから高速バスに乗って2時間くらい移動しました。宿に着いてすぐに海へトレーニングをしに行きました。砂浜をランニングしたり、海辺で先輩と相撲をしたりしました。相撲の結果は1回負けて1回勝ちました。トレーニングの後は先輩たちと海で遊びました。

2日目は、高校生を相手にしての練習試合でした。僕は3試合やって負けてしまいましたが、来年は勝てるように練習していきたいと思いました。

3日目は、高校生の本番の試合の見学でした。高校生の試合を見て、自分はまだ練習が足りないと思いました。そして遠征中はたくさんご飯を食べました。特に2日目の夜は、動けなくなるくらいたくさん食べました。

今回の遠征は僕にとって、とても楽しいものでした。来年も来られるように頑張りたいと思います。

夏の山形・新潟遠征

B組 佐々木 大也

今年の夏休みはほとんど毎日のように部活動をしていました。そんな中で思い出に残ったのは、8月22日から行った山形・新潟遠征です。普段は学校の先輩としか練習をしていないので、他校の高校生と練習ができて非常にいい経験となりました。

この合宿は6泊7日で、最初の3日間は山形県の高校生と練習試合でした。後半の3日間は新潟県で、1日は全国高等学校柔道親善試合を観戦して、残りの2日間は練習試合でした。1週間を通していろいろな高校生と稽古をして、去年もこの合宿に参加したけれども、去年より勝てる試合も多くなっていて、自分の良いところ、悪いところをはっきり出て、今後の課題などもたくさん発見できたので、次の自分の公式戦に向けて改善していきたいと感じました。

また来年、この合宿に参加するときには、さらに多くの試合に勝てるようにしっかり練習していきたいです。この合宿は夏のいい思い出となりました。

☆前期を振り返って 一中等部体育祭・剛健旅行一☆

中等部生活も残り半分。楽しい思い出を作っていきますよ!



赤組応援団



白組応援団



中等部男子1位! 金井宏太くん



気持ちの良い景色です☆



みんな仲良くゴールしました!

学年だより 高1

剛健旅行

7月10日、1年生にとっては初めての剛健旅行が開催され、男子は36km、女子は30kmの踏破に挑戦しました。素晴らしい晴天と星空に恵まれ、嬬恋村の豊かな自然の中を歩き通した生徒たちの感想をお届けします。

目標達成!

高校男子第7位 5組 河西 俊輔

私は今年の剛健旅行を7位という結果で終わることができました。私は中等部の頃から剛健旅行に参加してきましたが、去年は台風の接近により中止になってしまったので、今年も去年の分も走ってやるという気持ちでした。

私は陸上部の長距離の部門に所属しています。走りには自信があるので、今年も必ずベスト10位に入ることが目標でした。スタートから陸上部の1年と一緒に走りました。その後も走り続け、複数の休憩所を中継し、最後のチェックポイントについた時には7位でした。そのチェックポイントで仲の良い先輩に会ったので、ラストパートと一緒に走り、2人でゴールしました。結果は7位という順位でとてもうれしかったです。来年はもっと良い順位をとれるよう頑張ります。

初めての剛健旅行

高校女子第8位 8組 田口 もみじ

剛健旅行のスタート直前、30kmという未知の世界に対する興味と不安でドキドキしていました。私が過去に走ったことのある距離は最大で6km。全く想像することのできない距離に恐怖すらありました。校長先生のスタートの合図があったとき、いよいよ始まった、と思いました。途中で何度もあきらめそうになったけれど、一緒にゴールを目指した先輩方、嬬恋村の人、中等部の人など、多くの人から応援してもらい、頑張ることができました。ゴールしたとき、今までに感じたことのない達成感でとても気持ち良かったです。私はあと2回の剛健旅行が残っています。残りの2回も良い記録がつけられるよう全力で頑張りたいです。



スタートダッシュ!



そろそろ夕暮れです



チェックポイントにて



ゴールで1枚



疲れたけれど笑顔です



我らゴミ拾い部隊!

学年だより 高2

研修旅行 ②

今回は、学年の約60%に相当する生徒たちが参加したハワイコース（研修コースは164名、ホームステイコースは70名、サイエンスコースは38名）の報告です。

気付かされた研修旅行

ハワイ研修コース代表 6組 伊藤 克海

私は、今回の研修旅行が初めての外国でした。ハワイで最も驚いたのが、ダイヤモンドヘッドから見た景色でした。海と空の青色がとてもきれいで、感動しました。汗だくになりながら上まで登った甲斐がありました。
ハワイの街では、外国での会話の難しさを痛感しました。中学生から今まで英語を勉強してきましたが、現地の人とコミュニケーションをとるのがとても難しかったです。彼らの英語を聞き取ることもできず、聞き取れたとしても、すぐに返事をする事ができませんでした。英語を話すためには、今以上に勉強をしていかなければならないと思いました。
また、今回私は、生徒の中のコース長という立場でした。そこで、いろいろなことに気付かされました。普段部活動で言われていることが、環境が変わったり、人が変わったりすると全くできなくなってしまう。これは、まだまだ自分の中ですべきことがしっかりと身に付いていない証拠です。この旅行をきっかけに、より自分自身を見つめていかなければならないと感じました。

Happy Father's Day

ハワイホームステイコース代表 5組 中川 良佳

青かった海がオレンジと赤のグラデーションに染まり、やがて黒い闇に包まれていく。私たちは、ホームステイ先の家のバルコニーで夕食を食べている時に、このような日の入りを見ることができました。このバルコニーはワイキキビーチの目の前にあり、南国の景色を象徴するかのような場所でした。私は夕食を食べながら日の入りが、とてもきれいで研修旅行での一番の思い出になりました。
ホストファミリーの方々と初日に対面した時、彼らの英語はとても速く、私は単語すら聞き取れませんでした。しかし、彼らは私たちがわかるように簡単な英語に置き換えてくれたり、お互いジェスチャーを使ったりすることで、ゆっくりでしたがコミュニケーションを取ることができました。
ホームステイをした日は6月の第3週目の日曜日、「父の日」でした。ハワイでの父の日は、食事の時には毎回「Happy Father's Day」と言ったり、親や子どもと電話をしたりと、家族の絆を強く感じました。そして、外出して、帰宅した時には風船とプレゼントが置かれているサプライズなどもありました。ハワイの父の日は、日本よりも盛大に祝っていて驚きました。このような点でも文化の違いを知ることができてよかったです。

ハワイ島の素晴らしさ

ハワイサイエンスコース代表 10組 倉持 進吾

今回、私はハワイサイエンスコースに参加しました。ハワイサイエンスコースはハワイ島を訪問するコースで、ハワイ島にはなかなか行く機会がないと思ったからです。
私が一番印象に残っていることは、オニヅカビジターセンターで見た星空です。大きなプラネタリウムにいて、南十字星と北極星を同時に見ることができました。また、天の川もとてもきれいに見えました。私は初めて望遠鏡を使って星を観察しましたが、星が輝いているのがはっきりとわかり、さらには木星を見ることができてとても感動しました。
次に印象に残っていることは、半日、現地大学生と一緒にホノルルを散策したことです。コミュニケーションを図ろうとしても、なかなかうまく伝えることができて、自身の語学力の低さを痛感しました。将来は旅行関係の仕事希望しているので、今から勉強しようとする十分な動機づけになりました。この6日間は、自分にとって得るものが多い研修旅行になりました。



HTICにて



これからダイヤモンドヘッドへ



ダイヤモンドヘッドの頂上目指して



ホストファミリーと



キラウエア火山を訪れて



アカカ滝にて

学年だより 高3

3連覇なるか、それとも新王者誕生か!? 天下分け目のスポーツ大会

6月22日にアリーナでスポーツ大会が行われました。バスケットに綱引きなどさまざまな競技を行い、全9クラスが熱い火花を散らしながら戦いました。



総合優勝

8組 橋本 一輝

アリーナで行われるスポーツ大会は今回が最後ということで、いつも以上に盛り上がりました。その中で8組が優勝できたことをとてもうれしく思います。この結果は8組がすべての競技に対して全力で取り組み、クラスが一つになることによって得たものだと思います。次回は高校生活最後のスポーツ大会になるので、8組の団結力を生かして優勝をめざし、思い出に残るようにしたいです。



準優勝

3組 内田 涼太

私たち3組は、2年生のスポーツ大会から2大会連続で総合優勝していて、今回は史上初の3連覇がかかっていましたが、残念ながら達成することができませんでした。次回のスポーツ大会では、必ずリベンジしたいです。

第3位

1組 戸村 美結

今回のスポーツ大会は総合3位という結果に終わりましたが、女子バレーボールは優勝、男子バスケットは2位という好成績を残し、団結力はさらに深まったと思います。行事も残り少ないので、たくさん思い出を作っていきたいです。

東京国際ブックフェア見学ツアーに参加しました

7月3日に書籍や出版業界などに興味がある生徒11人が、東京ビッグサイトで行われていた「東京国際ブックフェア」に参加しました。



マレーシアのブースで国際交流

十本十色

5組 堀込 正

ブックフェアは想像していたものよりも規模が大きく、最初にゲートを通ったときはかなり驚きました。出版社や書店の細かい話も聞くことができ、今までどこか一緒に考えていた数々の本関連の会社が、改めて見渡してみるとどれも違うものに見えるという新鮮な気持ちになりました。特に河出書房新社のブースは狭いながらも昔ながらの古書堂のようで印象に残っています。

本との出会い

6組 木村 日菜子

どのような人たちが、何を求めて来ているのかを知るためにブックフェアに参加しましたが、本を凌駕する情報源はないんじゃないかと思うくらい、世の中すべてのジャンルの本があって感動しました。ずっと探していた本をこの場でやっと見つけられた、という人もいるのかなと思うと、とても素敵だなと思いました。そういう、本との出会いの場にいることのできる職業に魅力を感じました。



絵本のキャラクターと記念撮影

★本号の紙面作成は尾前隼士(5組)が担当しました

TOKAI キャンパスメッセージ

「えっ、数学って言葉だったんですか？」— 自然を語る言語としての数学

東海大学理学部数学科 主任 前田 陽一

皆さんは、毎日のように数学を勉強されていると思います。皆さんにとって数学はどんな科目ですか？ 数式を見るだけで“ゲゲゲ”と思う人、数学の問題が解けたときに無上の喜びを感じる人、友達に数学を教えることに楽しさを感じる人、こんなに難しい計算をなんでしなくちゃいけないんだろうと思っている人、皆さんそれぞれだと思います。物体の落下の実験で有名なガリレオ・ガリレイは「自然という書物は数という言葉で書かれている」という言葉を残しています。彼は、斜面で球を転がしながら、自分の心臓の鼓動を時計代わりにして、物体の移動距離を測りました。皆さんも理科の実験でやったことがあるで

しょう。1秒ごとに移動距離は長くなり、その比は、1:3:5:7:…になります。ガリレオは自然現象の中に数が潜んでいることにとても感動したに違いありません。微積分の発見者の一人であるライプニッツは、 $y = \frac{1}{1+x^2}$ という関数を使って、 $1 - \frac{1}{3} + \frac{1}{5} - \frac{1}{7} + \dots$ と無限に続く数式の極限值が円周率と関係があることを発見しています。皆さんは、どんな値だと思いますか？ 実はぴったり $\frac{\pi}{4}$ (約0.785) なのです。奇数と円周率がこんな形でつながるなんて不思議だと思いませんか？ ライプニッツは「神は奇数をお気に召す」と言ったと伝えられています。数学は私たち人間の知能を超えた美しさを秘めています。数学が自然を

語る言葉だとすれば、日本語や英語を学ぶように数学を学べるかもしれません。美しく、論理的で、ちょっととっつきにくくて、でもわかると「なーんだ」とか「なるほど」と納得できる言葉です。もちろん、数学は科学の基礎として現代社会を支えています。数学なしでは携帯電話もパソコンも自動車も建物もつくりだすことができません。数学という言葉を選び、さらにそれを発展させていきませんか？ 数学科では好奇心旺盛で、今まで誰も考えたことのないようなことを思いつくような皆さんを待っています。数学を学ぶことによって、社会のさまざまな分野で活躍できる人材を育成していきます。

好きな数学を見つける

東海大学総合理工学研究科総合理工学専攻1年(高輪台高校2009年3月卒業) 山田 実俊

私は「数学が好きで、もっと深く数学を学びたい」という単純な理由で理学部数学科への進学を選択しました。数学と言っても種類があり、大学では数学を解析、代数、幾何、確率・統計、計算機の5分野に分けて深く勉強することができます。私は数学科に進学して統計と計算機という自分の好きな数学を見つけることができました。私はさらに統計について深く学びたいと思い統計のゼミに入り、ある企業からデータを提供してもらって解析を行い、発表し合う企画であるデータ解析コンペティションに毎年参加してきまし

た。最初の2年(学部の3・4年)は大きすぎる(Excelで全データが表示できないほどの)データを扱うのに苦労して、単純な集計ぐらいしかできませんでした。大学院に進学してから参加した2年は、統計の手法を組み合わせたり、その手法を行うためのプログラミングを作成したりして、データの可視化手法を提案することができました。その可視化手法を応用・発展させたものを修士論文としてまとめました。さらにいろんなデータを扱ってみたいと思い、博士課程に進学し日々研究を行っています。数学は世界共通言語なので海外と

の交流もあります。東海大学の協定校であるタイのKMITL(モンクット工科大学)の留学生に、統計ソフトの操作の仕方を教えたり、ゼミのメンバーと一緒に箱根や鎌倉へ遠足に行ったりしました。またタイでの国際発表に参加したとき、その留学生と再会して研究交流会を行ったり、タイの観光地を案内してもらったりしました。数学を学び、自分の好きな数学を見つけ、好きな数学を使ってコミュニケーションできるのが数学科の魅力です。



タイでの国際発表



KMITLでの研究交流会



留学生と鎌倉遠足

SSH活動報告

7月21日から2泊3日で、1年SSHクラスが『科学体験学習旅行』を行いました。見学先は、愛知県の生理学・基礎生物学・分子科学研究所、岐阜県の核融合科学研究所、静岡県のトヨタ自動車株式会社、東海大学海洋学部清水校舎、東海大学海洋科学博物館です。また、TA(ティーチング・アシスタント)として2・3年生のSSHクラスの生徒6名が参加し、1年生をサポートしました。8月19日から4日間、2年SSHクラス全員と普通クラスの希望者で、『課題実験夏期集中』を行いました。10コースに分かれて、東海大学の施設で大学の先生の指導のもと、実験・実習を行い、そのことをまとめ発表しました。

充実した3日間

1年10組 棚橋 郁斗

私は、3日間でもっと多くの感動と驚きをしました。科学体験旅行では、核融合科学研究所をはじめとした日本を代表する研究施設や東海大学の清水キャンパス、そしてヤマハのような企業も見学することができました。その中でも私は核融合科学研究所が、印象に残っています。その理由は、実際に研究している場所や使用されている機材などを間近で見ることができ、また研究者からたくさん話を聞くことができたからです。研究所では核融合の起こる条件や原子力発電との違いや現在の技術での問題点などを学びました。バス内や宿舎ではプレゼンテーションを行い、プレゼン能力も少なからず上がったと思います。科学体験旅行はやるべきことが多く、大変でしたが過ぎてみると充実した3日間でもっと貴重な体験ができたと思います。できることならもう1度参加してみたいです。



核融合科学研究所での見学

TAとして

3年9組 越川 雄真

私は今回科学体験旅行に2回目のTAとして臨みました。去年は手本となる先輩方がいたので安心感があり、後輩に教えることだけに集中できましたが、今年は最上級生として全体を見ながら行動をしなければいけなかったため、一つ一つの行動に気をつけました。私が今回の旅行で一番変化があったと思うのが、1年生の物事の取り組みの態度です。初めの方はまだ慣れていないため研究者が言ったことをメモし、それを発表するだけでしたが、この旅行を通して小さなことでも気になったら質問をし、自分の発表を他人より良くするために、どう工夫するか考えられるようになりました。そのため、旅行に行く前と行った後で比べると、プレゼンテーション能力が段違いに上がっていてとても驚きました。2日目の夜に行った班での発表では、文章をまとめる時間が短く心配でしたが、どの班も内容がまとまっていたとすごいなと思いました。ここで学んだことをこれからのSSH活動に生かしていってほしいです。



1年生のプレゼンを先輩が指導

望星丸に乗船しての実習

2年10組 大箭 望

私は、課題実験夏期集中で自然環境コースを選びました。実習内容は、望星丸に乗船して静岡県の駿河湾と伊豆大島の水質調査とプランクトン採取、あらかじめ取っていた東京湾(天王洲アイル、潮風公園)のデータと比べるというものでした。結果は、予想していた通り駿河湾と伊豆大島の水質のほうが圧倒的に東京湾の水質よりもきれいでした。また、プランクトンの種類も違い、特に駿河湾ではコペポダというプランクトンが多かったです。乗船して2日目には伊豆大島に上陸し、三原山登山やシュノーケリングをしました。シュノーケリングでは、野生のウツボなどなかなか見ることができない生物を発見しました。普段、フィールドワークをする機会がないので、今回はとても貴重な経験をすることができました。大学の先生や学生の方々に、多くのことを学びました。この活動を通して学んだことや経験したことを、今後の課題実験に生かしていきたいです。



深海の水を採取します